



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

1997～98年度 RIテーマ

国際ロータリークラブ会長 グレン・W・キンロス



ロータリーの心を

あなたの住むところ 私たちの世界 そこに住むすべての人々に

四大奉仕部門すべてを通じて ロータリーの心を示そう

クラブ奉仕—あなたのクラブに ロータリーの心を

職業奉仕—あなたの職業に ロータリーの心を

社会奉仕—あなたの地域社会に ロータリーの心を

国際奉仕—私たちの世界に ロータリーの心を

第487回 平成9年12月19日(金)

[本日のプログラム]

1. 点 鐘
2. ロータリーソング
「我等の生業」
3. 食 事
4. 会 長 の 時 間
5. 幹 事 報 告
6. 各 委 員 会 報 告
7. 会員卓話
8. 点 鐘

次 回 予 告

*12月26日(金)

全員協議会

*1月2日(金)

特別休会

*1月9日(金)

新年家族懇親会

佐土原ロータリークラブ

例会日 毎週金曜日(12:30~13:30) 第24 19:00 会 長 徳 丸 彰 一
例会場 石崎浜荘 ☎0985-73-1913 副会長 加 藤 仙 之
事務局 宮崎郡佐土原町大字下田島20614 幹 事 梶 田 與 之 助
山脇医院長自宅内 会 計 福 井 輝 文
☎880-02 ☎(FAX)0985-73-7170 会 費 収 入 垂 水 敏 雄

第 4 8 6 回例会記録

(1997. 12. 12)

☆会長の時間

代理 副会長 加藤 仙之君

皆さん今晚は、本日は第486回例会です。徳丸会長が出張中のため出席できませんので、私が代行させていただきます。早いもので、私も佐土原RCに入会して来年4月で3年になります。先週の例会で、徳丸会長から次年度佐土原RC役員候補者の選考結果の報告があり、原案どおり承認され、不肖私が会長をお引受けすることになりました。

実は、11月28日の当クラブ理事会で、会長・幹事・会計の方々から、順番として副会長に次年度会長をしていただきたいとの懇請がありました。その時に私が思いましたことは、約3年間会員としての私の位置付けは何であったのだろうかというためらいでした。

ご承知のようにロータリーの綱領には、『有益な事業の基礎として、奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し…』という基本理念が頭初に掲げてあります。これから考えますと、果たして自分はロータリアンの資格があるのかという疑問がかねてからあり、当日の理事会でもこのことを申し上げた次第です。当クラブに入会勧誘をいただいた時は、佐土原町役場という行政機関に33年間勤務しただけで、社会的な活動は特別して来なかった私ですが、ボランティア活動に対する関心は強かったので、社会奉仕を中心とすると聴いていたロータリークラブに加入して、今までできなかった社会奉仕活動ができ

ればと考え入会いたしました。しかし、今日までに何をしたかについて反省しているところです。このような状況の中で次期会長を引受けてよいのか、自問自答を続けて来ました。本来なら、副会長に選考された時に、自分の真意を申し上げて辞退すべきであったのですが。

副会長が会長エレクトトとして次期会長に就任することになっているのであれば、受けざるを得ないのではないかという結論を自分なりに出したわけです。

繰り返しますが、仕事を持っていないということが私にとってはハンディのように思われます。このような者が会長として適切かどうかについては、今だに疑問を持っていますが、幸い、車の両輪となる次期幹事を吉田康一郎会員が快くお引受けくださいましたので、二人で力を合わせて頑張っていきたいと思います。

これから6ヶ月は会長見習いとして一生懸命勉強し、皆さんにご迷惑を掛けない会長を目指したいと考えております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

☆幹事報告

梶 田 興 之 助 君

1. 例会変更通知

*都城北RC 12月30日は特別休会

“ 1月6日の例会は、9日

18:00 メインホールナカムラ

*都城西RC 12月31日は特別休会

“ 1月7日の例会は、9日

18:00 メインホールナカムラ

*都城中央RC 1月8日の例会は9日

18:00 メインホールナカムラ

2. 佐土原RC事務局の年末及び年始の休業は、平成9年12月27日(土)から平成10年1月4日(日)までとします。

3. 去る12月8日に宮崎市郡7RCの会長・幹事会が開催されました。

主な議題は、『次年度中部分区代理の選出について』でしたが、宮崎市内6RCに適任者がいれば推薦していただいてもよいということになりました。

徳丸会長から、2月15日のIMへの全員登録について要請し、了承されました。

☆出席報告

委員長 宮 原 建 樹 君

会 員 数	27名
H C 出席者数	21名
欠 席 者 数	6名
出 席 率	77.8%
メークアップ者数	3名
修 正 出 席 率	88.9%
欠 席 者 名	福田・神宮寺・伊東 様

来週は出席100%目標日となっていますので、よろしくお願いいたします。

☆中部分区代理より

山 脇 忍 君

1. 次期中部分区代理の早急選出については、各RC会長に文書で依頼してあります。分区代理も将来はガバナー代理をするまでに発展することが予想されますので、できるだけ早く決めていただき、十分勉強できる期間が欲しい

からです。中部分区代理の選出地域区分を、北は〔高鍋・西都・佐土原〕、中央は〔宮崎・宮崎西・宮崎北・宮崎南・宮崎中央・宮崎東〕、南は〔日南・日南中央・串間〕に分け、北⇄中央⇄南⇄中央⇄北⇄中央⇄南⇄中央の順番に分区代理を選出していけば、1年前位には分区代理を選出するRCが分かるようになると思います。

2. IMについて

本年度宮崎県中部分区IMプログラムの最終案は次のとおりですが、進行状況などを併せて報告いたします。

記

9:00~10:00 登録受付

※中部分区内12RCに全員登録の依頼がしてあります。登録料は前年と同額の4,000円です。
実出席予定者数が分かるのは1月12日(頃)になります。
図師ガバナー及び中部分区内バストガバナーには別途案内がしてあります。

10:00 点 鐘 中部分区代理 山脇 忍
進行・司会 SAA 田村 隆二・直前会長 伊東忠寛
国歌斉唱「君が代」 ソングリーダー 赤木達也
ロータリーソング「奉仕の理想」 同 上
開会挨拶 IM実行委員長 垂水敏雄
中部分区代理挨拶 山脇 忍
参加クラブ紹介 中部分区代理 山脇 忍
ガバナー挨拶 図師 鎮雄
飯通挨拶 ホストクラブ会長 徳丸彰一

10:30~12:00 記念講演

宮崎医科大学微生物学教室教授 南嶋洋一先生
※演題及び講演要旨の送付を依頼してあります。

12:00~12:40 昼 食

12:40~13:00 アトラクション

※吉田委員長にご検討をお願いして
あります。

13:10~15:00 全体会議

IMテーマ 『新世代プログラムについて』

カンセラー P G 岩 下 哲 夫(宮崎北RC)

リーダー 秦 喜八郎(宮崎中央RC)

サブリーダー 志 多 昭 彦(宮崎RC)

※上記の3名の方と協議し、今回は
以下のような形で研究協議会を行
うことにしました。

○新世代プログラムについて 秦リーダー挨拶

○研究協議事項第1の司会にあたって 志多サブリーダー

1. 新世代についてロータリーは何を
したか (13:15~13:50)

司 会 志多サブリーダー

パネリスト(インターアクト) 宮崎西RC

パネリスト(ローターアクト) 宮崎RC

パネリスト(ライラ) 西都RC

追加発言者 高鍋RC・日南RC

※ここで5分間休憩し、壇上を一部
変更します。

2. 昨年度の新世代会議でどのような
成果が得られたか (13:55~14:20)

司 会 秦リーダー

パネリスト 串間RC

パネリスト 宮崎南RC

追加発言者 佐土原RC(恒吉正志君)

3. 新世代に対し、ロータリーは何を
なすべきか (14:20~14:50)

司 会 秦リーダー

パネリスト 宮崎北RC

パネリスト 日南中央RC

パネリスト 宮崎中央RC

追加発言者 宮崎東RC

岩下カウンセラー 講評 (14:50~15:00)

聴衆の談

IM実行委員長 垂水敏雄

※記録の効率化を図るために、全員から
発言要旨をいただくように手配してあ
ります。

☆ 会 員 卓 話

藤 堂 孝 一 君

住宅着工の中期的な見通し、新規需要
の基礎数値は世帯数の変動と関係がある
ことについて今回は話したいと思います。

新規の住宅需要のベースラインを決定
するのは世帯数の変動であり、住み替え
パターンが強く影響しています。すなわ
ち、世帯数と密接な関係がある婚姻件数
が持ち家系の新規需要に、また、都市圏
への人口流入が借家系の新規需要に、大
きな影響を与えているわけです。新規需
要を利用関係別に見ると、先ず持ち家系
需要の動きは5年ほど前の婚姻件数によ
って説明できます。婚姻件数は1970
年代前半にピークを迎え、その後減少傾
向をたどっていますが、これにやや時間
を置いて持ち家系新規需要にも同様な動
きが現れています。ラグの長さが約5年
という点については、結婚して第一子が
生まれ、ある程度成長した頃に持ち家の
新規需要が発生するものと推察されます。

一方、借家系新規需要の動きは、三大
都市への転入超過の推移から説明できま
す。70年以降減少傾向をたどり、バブ
ル期に一旦増えたものの再び減少に向か
い、93年には転出超過に転じました。

借家系新規需要の変動も、こうした動
きにおおむねそったものとなっているよ
うです。